

令和4年度 第6回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 令和5年3月14日(火) 14:00~16:00
- 2 開催場所 小平市立花小金井南公民館 ホール
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 10名 (Zoom参加者3名含む)
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長
分館担当係長 9名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 令和4年度小平市公民館定期講座等一覧表・・・・・・・・・・資料1
(2) 令和4年度東京都公民館連絡協議会 職員部会 研修報告・・・・・・・・資料2
(3) 令和4年度東京都公民館連絡協議会 委員部会 研修報告・・・・・・・・資料3
(4) 令和5年度小平市公民館事業計画(案)・・・・・・・・・・資料4
(5) 令和5年度公民館運営審議会日程表・・・・・・・・・・資料5
(6) 令和4年度第5回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・・・・・・資料6
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 令和4年度 小平市公民館定期講座等について
(3) 令和4年度 東京都公民館連絡協議会について
①職員部会について
②委員部会について
③研究大会について
(4) 令和5年度公民館事業計画(案)について
(5) 令和4年度の振り返り
(6) その他

会議の概要

1 館長報告

- (1) 小平市議会3月定例会における公民館に関連する一般質問の内容について

橋本久雄議員より「小平第四小学校と小平第十小学校の通学エリアでは延べ床面積が75%削減

される」の質問について

- ①「地域センター、集会室、及び公民館の廃止の数」については、公共施設マネジメント推進計画の昨年3月の改定時点において、すでに複合化が決定していた中央公民館、及び小川西町公民館を除く地域センター19館と公民館9館を、仮称地区交流センターの小学校への複合化に伴う廃止の検討対象施設として位置付けている。
- ②「仮称地区交流センターへの公民館機能の移転」については、公民館が担っている地域学習機能を小学校に複合化することは、すでに公共施設マネジメント推進計画に示しており、現在、公民館が行っている事業や活動を、仮称地区交流センター内で行うことを想定している。今後、整理・検討を行うべき事項としては、仮称地区交流センターの管理運営体制や施設の使用料、開館時間や休館日、施設の予約方法など、条例や規則で定める事項等を想定している。
- ③「仮称地区交流センターの運営」については、仮称十一小地区交流センターの運営は、現時点では直営を想定している。なお、小学校の更新にあわせた、仮称地区交流センターの整備は、今後40年ほどをかけて順次進めていく取組であるため、将来的には指定管理者制度の導入の可能性も検討する必要があるものと認識している。
- ④「集会施設等の利用者負担の見直しスケジュール」については、コロナ禍や物価高騰等の市民生活への影響を踏まえ、見直しの検討については、来年度は引き続き凍結とし、再開時期は社会・経済情勢等を見極めながら、改めて検討する。
- ⑤「公募委員を含めた検討を行わないのか」については、現在凍結している集会施設等の利用者負担の見直しは、利用団体の方も公募委員として参加された平成21年度の小平市受益者負担の適正化検討委員会の検討結果報告書をもとに進めているので、改めて検討委員会を設置する予定はない。なお、検討委員会の設置の背景となった平成19年11月実施の小平市政に関する世論調査における市民意見と同様に、令和3年5月実施の世論調査でも、7割近くの方が、利用者が経費を負担すべきと回答しており、市民意識に変化はないものと捉えている。
- ⑥「仮称地区交流センターの延べ床面積」については、公共施設マネジメント推進計画では、多くの学校が第一種低層住居専用地域に建設されていることを踏まえ、600平方メートルを上限とするとしている。複合化による廊下や階段等の共有化、貸し部屋の多目的化を図るとともに、小学校の特別教室等の地域開放や、将来的な児童数の減少に伴う空き教室の転用等も想定し、複合化の利点を活かした効率的な施設を目指す。
- ⑦「学校の空き教室などの利用の問題はないか」については、地域開放を想定する学校の特別教室等については、学校運営時間以外の開放を想定しており、音楽室や学校図書館など、各特別教室の様々な機能を地域で利用することも可能となるものと捉えている。また、市民の学校施設への立入りには、防犯上や管理上の観点から、動線やエリアの区分に配慮して検討する。なお、学校と地域コミュニティ施設の複合化の効果として、子どもたちと地域の方が関わり合う中で、子どもたちの成長を支えたり、地域の多世代の人々の交流や地域活動が広がるような施設を目指す。
- ⑧「小平第四小学校と小平第十小学校の通学区域内の既存地域コミュニティ施設と、仮称地区交

流センターの延べ床面積」については、現在の小平第四小学校、及び小平第十小学校の通学区域内には、上水本町地域センター、学園西町地域センター、津田公民館、上水南公民館がある。一方で、隣接する小平第三小学校の更新や、将来的な小平第十五小学校、及び小平第六小学校の統合の検討などに際して、通学区域の変更を行う可能性があり、また、既存の地域コミュニティ施設の配置バランスなども踏まえ、通学区域境に近い場所に立地する施設については、どの小学校の更新にあわせて廃止の検討をするか、一定の調整を図る可能性も想定している。既存の公民館、及び地域センターを、現在の小学校の通学区域ごとに見ると、その配置状況にはかなりの差異があるので、市としては、既存施設の床面積を基準とするのではなく、市内全体にバランスよく配置されている全ての小学校に、おおむね同一の規模で、同一の機能を備えた仮称地区交流センターを配置していくことで、小学校を核とする地域コミュニティの醸成を図っていくことが望ましいと認識している。

- ⑨「地区交流センターごとの削減率」については、既存の地域コミュニティ施設がない小学校区もあり、また、第8点目で答弁したとおり、将来的な通学区域の変更の可能性もあるため、現時点の小学校区ごとの地域コミュニティ施設の縮減率は算出していない。該当する施設の総量で縮減率を試算すると、仮称十一小地区交流センターと同様の施設を14館設置した場合、現在、学校への複合化を想定している既存の地域センター、及び公民館の総量と比較して、延べ床面積は、おおむね5割程度、市民活動スペースは、おおむね4割程度の縮減率となるものと想定している。なお、小学校の特別教室等の地域開放や、将来的な児童数の減少に伴う空き教室の転用等も想定し、複合化の利点を生かした効率的な施設を目指す。

(2) 「公共施設マネジメント」の状況について

小川エリアについては、1月27、28日に、パネルや模型を展示するオープンハウスが開催された。77人が来場し、同時期に行ったアンケートには45人からの回答をいただいたとの報告があった。回答の中には、イベントに期待、防犯のため暗い場所はなくしてほしい、などの意見があった。

中央エリアの基本設計については、1月28日、2月7日に説明会とワークショップが開催された。説明会にはそれぞれ73人、18人、ワークショップには32人、15人の参加があった。その後のアンケートには136人からの回答をいただいた。例としては、設計案の5段階評価はおおむね高評価だったが、自由意見として、動線・交通への不安、各エリアでの過ごし方へのアイデアをいただいた。2月22日・27日の利用者団体ヒアリングには、それぞれ17人、14人の参加があり、貴重な意見を伺った。また、別途3月24日には、障がい者団体ヒアリングを行う予定とのことである。

(3) 3月13日以降の「公民館の運営」について

国及び東京都の方針を受け、全国公民館連合会は新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインを改訂した。これに合わせて、小平市では3月13日以降、基本的な感染防止対策を継続し

つつ、マスクの着脱は屋内・屋外を問わず、個人の判断を尊重するよう取り扱うこととする。
公民館職員については、利用者に対応するときは、マスクの着用を継続する。

(質疑応答)

会 長 部屋人数の制限はいかがか。

季高館長 昨年から部屋の利用人数制限は解除している。3密を避けるため、各々の団体に広い部屋を利用している実態はある。また、主催講座については、事前に講師と調整してその講座に合った人数を定員としている。

長澤委員 公民館の廃止という発言があったが、どのような意味で廃止なのか。

季高館長 公共施設マネジメント計画には、すでに廃止ということが記載されている。どのような意味かということだが、小平第十一小学校に花小金井北公民館が複合化されるが、複合化された後に、既存の花小金井北公民館は取り壊すということが廃止されるという意味である。

長澤委員 以前、公共施設マネジメント課に説明していただいた際に、条例上も廃止するのかと聞いたところ、公民館条例を残すことも含めて検討している、と聞いたと思う。

季高館長 既存の建物の廃止ということで、公民館機能は仮称地区交流センターに移転するという認識である。仮称地区交流センターに公民館機能が移転し、その中で、公民館の事業が展開されるということで、現在の検討状況は、直営で公民館職員が配置されると認識している。

長澤委員 仮称地区交流センターと称しても、公民館条例を残すことは可能だと思う。

季高館長 公民館条例をそのまま適用するのはまだ検討段階だと理解している。

長澤委員 公民館条例を廃止するというについての議論は決まっていないという理解でよろしいか。

季高館長 条例上は、花小金井北公民館について、住所が変わることが想定される。

長澤委員 建物を壊すことを廃止するというのは日本語としておかしいのではないか。それともう一つ、総合管理計画を確認したが、小平十一小学校の複合化は仮称十一小地区交流センターと記載されていたが、今後の小学校への複合化についてもすべてが仮称地区交流センター

になっていくことが計画に明記されていたか。

季高館長 今後、すべての小学校で公民館や地域センターを複合化していき、仮称地区交流センターになっていくということについては、公共施設マネジメント推進計画にも明記されている。私の理解では、小平市のすべての小学校に、公民館機能が備わった仮称地区交流センターが複合化していくと認識している。極端な言い方をすると、公民館が現在の 11 館から、小川地区と中央と小学校 14 校に公民館が増えるものだと認識している。

古家委員 公民館の名称はなくなるのか。

季高館長 まだ、決定はしていないと思う。

会 長 また、次の機会に公共施設マネジメント課から、説明してほしいと思う。

上原委員 地域センターについて、目的がわからない。仮称地区交流センターについても目的を明確にしないと先々困るのではないか。

季高館長 仮称地区交流センターがどのようなものかということだが、計画では、各小学校に公民館と地域センターを複合化していくという方針を定めている。その中身が公民館か地域センターか全く新しい施設であるかということも検討中で決まっていない。今回の一般質問の答弁では、仮称地区交流センターは直営で、公民館機能が移転するということから、公民館職員が運営していくことが想定される。また、名称も仮称であるため、地区交流センターか公民館になるかは決まっていない。

会 長 説明会等にも参加しているが、進捗状況がよくわからない。公共施設マネジメントニュースなどで、文章で出してもらおうとわかりやすいのではないか。

季高館長 皆さんへの情報提供の方法も考えていきたい。

上原委員 将来的に市民のつながりが大切で、今は、自治会がうまく機能していないと聞いている。自治会のリーダー育成など、市民の連帯性の醸成を誘導してほしい。トラブルをなくすためにも、市民の皆さんが仲良くするための街づくりが大事だと思う。

2 令和 4 年度 小平市公民館定期講座等について

鈴木公民館

公民館に異動して2年目だが、1年目より慣れてはいるはずだったが、その分気づけなかったことへの対応など、結果として今年度のほうが、忙しかったという印象である。今年度のまとめとして、公民館まつりを3年ぶりに開催したことが大きかった。これまでのまつりより、規模を縮小したとはいえ、公民館で最も大事にされるべき「公民館利用者のため」のまつりと目的を明確化し実施できたことは、今後のまつりを考える上で重要な開催になった。来年度もコロナ禍前の状態にそのまま戻すようなことではなく、目的と成果、バランスなどをよく考えた上で、今の公民館に必要な内容を実施していきたいと考えている。2年目となり、利用者、地域の方々等、人との関わりが深くなり距離が近くなってきたと感じている。人と人の関係は、やはり時間が必要なのだと改めて思っているところで、来年度もさらに前進していきたいと思う。

大沼公民館

公民館まつりの復活が大きな出来事だったと思う。今年度は小規模ながら実施できたが、来年度はコロナの状況によるが、規制も緩和されてきており社会情勢的にも規模の大きい公民館まつりになっていくと思う。

10コース、事業企画委員が企画した講座を実施する予定で、すでに8コースが終了している。「あこがれの職業について学ぼう イラストレーター」については、もともとジュニア講座で開催する予定であったが、中・高生を対象にしたことにより、文化・教養講座とした。

3月、5月とコロナに関する規制緩和に合わせて公民館の活動をにぎやかにしていければいいと思っている。

津田公民館

3つの講座について、サークル化を図れたのがよかった。個人的に印象深い講座は、地域支援講座「子ども食堂ってどんどこ」について、市内の風鈴草、カモミールに協力をいただき、座学だけでなく運営を手伝った。体験をしたことにより、昨年度の小川西町公民館のように講座からサークルが立ち上がることが理想といえるが、運営の方からは、その後もボランティアとして携わっている方がいると聞いている。公民館の中で終始する活動ということではなく、地域に飛び出していったというところに貢献できたと思っている。来年度以降も地域貢献に役立つ講座の企画に結び付けばと思っている。

仲町公民館

今年度は、地域資源の活用に重点をおき、講師を選定してきた。仲町公民館で活動されているサークルや地域の農家、商店主の方々に講師を依頼した。

また、なかまちテラス LINKS 講座「珈琲・紅茶でリフレッシュ」では定員を大きく上回る応募があったことから、落選者の救済の意味も含めて、ハイブリッド形式のオンライン講座を実施した。講座が珈琲や紅茶を実際に淹れて、嗅覚、味覚を愉しむ内容であったことから、オンライン講座の選定と

して相応しいものであったかは課題として捉えている。今回、初の試みとなるZ o o mを使用した講座を実施し、いくつかの課題点もあったので、それらについては検証し、今後の講座に繋げて行きたいと考えている。16人が対面で参加し、14人がオンラインの参加となった。

サークル化について、講座等実施状況表では、予定の予と記載しているが、地域支援講座「季節の味覚を愉しもう 小平のフルーツでズコットづくり」もサークルとなり、2つの講座からサークルが立ち上がった。

花小金井南公民館

昨年6月以降は中央公民館や近隣の分館長による応援体制で事業の運営を行っており、講座の実施時期が遅めの開始となったが、2コースを除き、3月25日に終了する予定である。

令和4年度に実施を見送った講座は、地域支援講座「コミュニティカレッジ」については、現時点においては、東部地区における地域活動を推進する人材を育成することを目指したいという意見や、花小金井南公民館のサークル活動の活性化を図りたいという意見が出るなど見解の一致には至っていないことから、分館長を始め、地域の皆様が十分な議論を行ったうえで事業を開始することが必要との判断から、令和4年度の実施を見送った。一方、他の開設講座で受講申込が多かったバランスボールや野鳥観察を2月から3月にかけて追加開催することで、サークル化も見据えた取り組みを行うこととした。

また、地域支援講座として予定していた学習支援に関する講座については、花小金井南中学校の校長を中心に教員の皆様など地域の方の多大なご協力をいただいて、学習支援室「花サポ」の開設という方法により、1月10日から3月7日まで実施した。学習支援室については、より多くの子どもたちに来てもらうことが課題となっており、中央公民館においても同様の課題を抱えていることから、公民館における学習支援の在り方については、引き続き、公民館側で検討していく。

最後になりますが、花小金井南公民館におきましては、事業企画委員会を年8回開催しており、他の館と比べて開催回数が多く、地域の皆様との交流を大切にしている。学習支援以外においても、令和4年度は3月11日から開催している文化・教養講座「外国人と話す 国際交流・多文化共生セミナー」を事業企画委員会の委員の方が中心となって運営するといった試みもしている。

令和5年度においても地域のつながりを大切に事業に取り組んでいく。

小川西町公民館

今年度は 新型コロナウイルス感染症を考慮しつつ、規模を縮小して、公民館まつりを3年ぶりに開催した。来場者数はコロナ前から半減したが、開催できたことが一番の収穫だと思っている。来年度以降は、令和8年度以降の小川駅西口新公共施設への移転を見据えて、継続的な取り組みができるよう検討していきたいと考えている。

また、講座については、健康づくり講座「バードウォッチングで外に出よう」が大変好評で、応募多数のために受講できない方が多くいたため、年度内に追加で開催した。いずれの講座もサークル化し、講座終了後も学びを継続することができている。子育て支援講座「アロマで癒しの子育てを 心

と体が豊かになる「癒しのアロマセラピー」は、講座実施状況表では予と記されているが、サークル化する予定である。文化・教養講座「芸術文化と生活をつなごう～ムサビ芸術文化学科教員によるレクチャーシリーズ」は、しばらくはグループを作って活動し、その後サークル化しようという緩やかなグループとなった。本日終了した地域支援講座「国蝶オオムラサキの飼育から考える、SDGs の目標 15『陸の豊かさを守ろう』』については、サークル化に向けて進み始めた。

今後はサークル化を目指すことはもちろんだが、そのみを目指とせず、学びを地域に還元する意味でも、サークルから講座の講師を多数輩出できるよう、引き続き支援していく。

上水南公民館

講座終了後に立ち上がったサークル2つをご紹介します。

地域支援講座「共に生きる やさしい日本語でのコミュニケーション」から立ち上がった「上水やさしい日本語の会」は、現在活動中の「上水日本語の会」で、外国の方に日本語支援をすることを目標として活動している。

子育て支援講座「こころにゆとりを 楽しくアート書道」から立ち上がった「アート書道 なごやか」は、今年度の公民館まつりで作品を展示するなど意欲的に創作活動をしている。

コロナ禍で講座の定員が少ないなか、受講者の方の熱意でサークルを立ち上げることができた。今後も途切れることなく活動できるよう、サークル支援をしていきたいと考えている。

また、今年度は、3年ぶりに公民館まつりを開催し、利用者の方の生き生きした姿を拝見することができ、開催できたことに喜びを感じた。今年度のまつりは、コロナ禍のため、公民館で活動している利用団体の学習成果発表展という位置付けでの開催だったが、来年度は小・中学校の児童・生徒たちの作品展示やよさこいの発表などを実施し、子どもから大人までの地域の方の交流の場になるよう盛り上げていきたいと考えている。

今後も地域の方の居場所となる居心地の良い公民館を目指していきたいと思う。

上宿公民館

上宿公民館の事業を振り返ると、新型コロナウイルス感染症について、都のリバウンド警戒期間の中だったが、令和4年5月21日（土）に、第46回上宿公民館まつりを3年ぶりに開催することができた。

3コース4回について、Z o o mによるリモート講座で開催を行った。コロナ禍など非常時における公民館のオンライン講座の運営手段の一つとして、実際に実施し、諸課題が提起でき、各講座開設の一助になったと考える。今後は、各館の講座の実施状況を情報共有し、有事における公民館のできることや可能性を話し合う必要性を感じた。

コロナ禍のなか、講座の運営については、細心の注意を払い、利用者の方への新型コロナウイルス感染症予防の普及啓発、館内の各部屋や共用部の定期的な消毒・清掃と尽力した。

一方で、サークルの活動は、会員の高齢化、コロナ禍を理由に減少している。会員の高齢化や役員の担い手不足を理由に、利用者懇談会を脱会したいというサークルも多く、サークル活動の諸問題が

ある場合、まず公民館へご相談くださいとの定期的なアナウンスを行い、きめ細やかに対応できるようにしている。

花小金井北公民館

講座としては、子育て支援講座「赤ちゃん和妈妈のふれあって笑顔の子育て」がサークル化した。子育ての悩み、喜びを互いに話し合う場として、公民館を利用していただければと思っている。

「水彩で描こう！」については、人気の講座だったが残念ながらサークル化とはならなかった。5年度も同講座を実施し、サークル化を目指したい。

公民館まつりはサークルの日ごろの成果の発表をテーマに、まだコロナの影響もあるなか、久しぶりのまつりでサークルの皆さんも生き生きと楽しく参加されていた。

小平第十一小の複合化に向けては、サークルの皆様とも情報を共有していきたい。

花小金井北公民館は定期利用団体も少ないが、アットホームで皆さん良い方たちが多く、これからも利用者、地域の方々との関係を大切にしていきたい。

小川公民館

3月に実施した、文化・教養講座「本場の美味しいタコスを作ろう」。20代など若い方からの応募もあり、最終的に57人の応募となった。花小金井の店長とメキシコ人の講師を招き、本場のメキシコ料理とスープなどを調理し試食した。非常においしく作れたこともあり、タコスの原材料であるトウモロコシの皮を購入したとの話も聞いた。シニア講座「スマホ(アンドロイド)入門」については、12人の方から要望がありサークル化に向けて調整中である。

3年ぶりに実施した、第50回小川公民館まつりは、書道、陶芸、七宝、折り紙などの作品展示、コーラス、オカリナ、フラダンスなどの舞台発表を実施した。

また、陶器市、小物販売、今年度初めて地場野菜の販売を実施した。来年もぜひ実施したい、1年に1回はやらないとだめだ、との意見を多くいただいた。

中央公民館

新型コロナウイルス感染症関連の影響として、昨年9月に開催した友・遊こどもまつりを対面での実施を見送ったほか、未だ3人掛けの机を2人で使用するために講座の定員数を抑制したり、講座やイベントにおいて飲食を伴うプログラムに制約がかかったりといったことがあるものの、概ね事業計画どおりに事業を実施できたものと考えている。

令和4年度の中央公民館の取組としては、今後の公民館の複合化を見据えて、若い世代の公民館利用が1つ課題となっているとの認識のもと、昨年6月には高校生事業企画員会を立ち上げたほか、友・遊こども広場の充実などにも取り組んだ。

高校生事業企画委員会においては、3月5日のこだいらオール公民館まつりにおいて「マゼンタスター講演会」を開催し、高校生と市民の皆様が、交流するきっかけとなった。

友・遊こども広場においては、コロナ禍で活動を休止していたNゲージを再開したことで、子ども

の運営スタッフも多く集まり活動に活気が出てきた。

この他、サークルフェアに参加したことを機に、市民の方とボードゲーム広場を開催することも試行的に実施しており、こういったことを契機に、現在、コロナ禍で活動を休止していた他の地域ボランティアからも、友・遊こども広場への協力の申し出をいただけるようになった。

令和5年度は、こういった取組をさらに推進していけるよう努めていく。

季高館長

委員の意見を参考にしながら公民館運営ができたことに感謝する。

各分館とも館の個性を踏まえ、よく工夫をして1年間様々な講座・事業に取り組んでもらった。中央を含めて、コロナ前の平成30年度と比較し、令和3年度の利用人数は5割程度、利用回数は7割程度、令和4年度の利用人数は7割程度、利用回数は8割程度に回復してきた。

高校生事業企画委員会、オンラインへの取り組み、小学生の来館への取り組みを続けてきた結果、こだいらオール公民館まつりの来館者は過去10年で最も多い、3,500人を超える来場者があったとこのことで、成果が出てきていると思う。来年度もさまざまな課題はあるが、事業計画に沿って良い公民館づくりに努めていく。

会長 子育て講座のサークル化が多い。若い方が横のつながりを持ちたがっているということかと思う。大変うれしく思う。

3 令和4年度 東京都公民館連絡協議会について

職員部会については、職員より資料2について説明した。

委員部会については、委員より資料3について説明した。

研究大会については、職員より無事終了したことを説明した。

(質疑応答)

久米委員 町田市が東京都公民館連絡協議会を脱退するとのことだが、どうか。

鈴木委員 町田市と日野市が退会の方向だとのこと。まだ、決定ではない。

4 令和5年度公民館事業計画の概要(案)について

資料4参照。(1月の概要(案)から基本方針変更なし、推進事項13に変更あり、15は削除。)

(質疑応答)

細江委員 推進事項2の、「市民が教え、市民が学ぶ」をコンセプトに、という表現が、市民が学びあうことを基本に、に修正されているが、これはどのような理由か。

季高館長 前期の教育振興基本計画から、第二次教育振興基本計画に変更した際に文言修正があったもので、教えるから学びあうという表現に修正されたことによるもの。

田尻委員 市民学習奨励学級について、この支援についての募集はどのようにしているか。

館長補佐 市民学習奨励学級について、年度初めに市報で募集し、説明会を実施し、4団体5回のコースを公民館が選考する。

多田委員 花小金井南公民館の学習支援については、講座ではなく事業で実施と記載されているが、このような取り組みは子ども食堂のように広がっていけばいいと思っている。今後、どのように展開していくか。

館長補佐 当初、学習支援のあり方を学ぶことを考えていたが、学習支援事業を実際に実施していくことになった。受験シーズンに合わせて、夜の7時まで部屋の利用を延長して実施したが、生徒がなかなか集まらなかった。中央公民館でも学習支援室を実施しているが、支援したいボランティアは集まるが、学習をしたいという生徒がなかなか集まらない。

5 1年間の振り返りについて

古家委員 前回の審議会委員では、事業企画委員会がこれから実施という段階で、今回の審議会委員では、事業企画委員会が企画した講座がこのように実施されていて良かった。公民館まつりにも数館参加したが、「できないから中止」ではなく、「できることを実施する」という姿勢に感動した。小平第十一小の複合化について、学校との連携をもっと密にしていけばいいと思う。コミュニティスクールでも人材を欲しがっているので、審議会での話題を校長会で情報提供してほしい。

多田委員 本日のように、花小金井南公民館での定例会はいいと思う。以前は、数か所で定例会を開催していたと思うので、次年度は、いろいろな分館で実施してもらいたい。

細江委員 先日の東京都公民館研究大会で小平市の公民館が11館あり、いかに素晴らしい活動をしているかが分かった。また、自主研修会の長澤先生の講演では、公民館の成り立ちなどいろいろなことを学べた。やはり、公民館まつりが地域にあり、その地域、地域の活動が素

晴らしいと思った。

鈴木委員 3館程度の分館の事業企画委員会を傍聴した。事業計画に上がってきた講座を見て、もっと傍聴数を増やしていきたいと思った。また、事業企画委員との意見交換がしたいと思った。各分館の人生100年時代のこれからの公民館を考えていきたい。津田公民館の会長をしているが会員がどんどん退会していくことがさみしい。最後に、東京都公民館連絡協議会についても学んでいきたい。

田尻委員 民生委員の立場で参加しているが、これまで外部の会議で個人の意見を述べることにについて、守秘義務があるということから、なかなかできなかった。この審議会では意見を求められ、自分の意見を述べることができた。これまで、公民館を利用してきたが、日々接するニュースが社会教育なら解決できることがあると思った。契約の知識でクーリングオフを知らない世代について、20代が一番多いということを知った。このような課題についても社会教育でやれることがあると思った。

長澤委員 仕事から全国いろいろな公民館を見ている。小平市の講座実施状況表には、サークル化という欄があり、これはあまり見たことがない。小平市で定着してきた事業企画委員会の取組は三多摩でも歴史的にいろいろある。先日の自主研修会での事業企画委員とのワークショップでもたくさん学べた。地域に根差すという意味での小平市の11館は三多摩トップで、市の財産である。もっともっと公民館を発展させていってほしい。

久米委員 審議会でもオンラインで開催できて良かった。次年度について、分館でもオンラインをつなげていくことはいいと思う。指定管理者制度や仮称地区交流センターについて、決まってからでなく決まる前に審議会で検討していきたい。研究大会は第二課題別集会に参加したが、国分寺市の第9小学校と恋ヶ窪公民館が連携している。恋ヶ窪公民館の利用者で一番多い層は小学生とのことで、そのようなところを視察に行きたい。小学校と複合化して、利用が増えるのではないかと思った。また、長崎市の事例では、指定管理者が運営しているが、よくやっていると思った。来年は公共施設マネジメントについて学んでいきたい。

堀内委員 現在、「公民館のしあさって」というプロジェクトが実施されている。書籍もあり、展覧会は3月末まで実施している。ホームページでは全国の公民館の面白い活動が紹介されているので紹介した。これまで、講座受講者としての関りであったが、この1年は委員として審議会に参加して、たくさんのことを学ばせていただいた。私は、研究大会やおまつりに参加する際に、若い方や子どもが参加していると、公民館についての意見や何かいいヒントがないか話を聞いていた。来年度も若い方や子どもが参加しやすいようなことを提案していきたい。

上原委員 まだまだ分からないことが多いが、東京都公民館研究大会の基調講演では、公民館は参加する方が楽しいということが出発点だ、という話があり、そのような心がけは大切だと思った。自分のサークルでも、20年近く活動していて、いわゆる交流の場になっている。これからは、市民のことを考えて事業を実施していくことが大事だと思う。私の持論は、学校は教育、公民館は学習だと思っていて、市民の学びあいは良いことだと思う。

会 長 このコロナ禍でも少しずつサークル活動は活発になってきたが、高齢化によって公民館利用者が減っていることは事実だと思う。新たな利用者を獲得するためにどうすればいいのか、講座の企画にも工夫が必要だと思う。受講後も継続して、公民館を利用してもらうには、どう取り組んでいったらいいかなど考えている。先日、花小金井南公民館の国際交流講座に参加した。外国の中学生も参加していて、講師が日本語と英語を織り交ぜながら話していたが、その中学生は楽しそうに受講していた。その中学生が、今日の参加は心配していたが、周囲の人が優しくて来週また来る、と話した。このように、若い方が公民館に来たことがうれしかった。また、オール公民館まつりでは高校生の参加もあり、これからは、学校と公民館がより連携していけたらいいと思った。
皆さんの協力があり1年間を過ごすことができたことに感謝する。

6 その他

次年度の予定は資料5の通り。

会 長 令和5年度は、審議会でいろいろ学んできたことを提言としてまとめていきたいので、皆さんよろしく願いいたします。

次回は、4月11日（火）午後2時より、中央公民館にて開催する。